

特別支援教育への取組

特別支援教育とは、障害のある子どもが自立するために、一人一人の教育的ニーズを把握し、適切な指導及び必要な支援を行うものです。特別支援学校、特別支援学級だけでなく、通常の学級に在籍する発達障害のある子どもを含め、全ての学校において実施されるものです。

小中学校では・・・

校内特別支援委員会の設置

発達障害についての研修会を行い教職員の理解を深めます。また、特別な支援を必要とする子どもについての把握や支援の方向性を決め、担任とチームを組んで学校全体で支援に当たります。

特別支援教育コーディネーター

支援の内容や方法の検討をするなど、学校での支援を効果的に推進するキーパーソンです。個別の支援計画を練ったり、関係機関との連絡調整を行ったり、保護者からの相談を受けたりします。

通級指導教室・ことばの教室

通級指導教室は小学校で3か所(今泉小、岩松小、教育プラザ)、中学校で1か所(教育プラザ)を設置しています。通常学級で各教科の授業を受けながら、決まった時間だけ個別に指導を受け、学校生活に適応していくためのスキルを身に付けます。

また、ことばの教室も1か所(富士第一小)設置しています。

特別支援学級

8人以下の少人数学級で、一人一人に応じたきめ細やかな指導をします。知的障害と自閉症・情緒障害及び肢体不自由の3種類があります。

教育委員会では・・・

教育・進学・就労相談と支援

特別支援教育センターには 学習相談員、作業療法士、心理判定員、ことばの相談員、社会福祉相談員、就学支援相談員等の専門職員がいます。学校や保護者から学校生活・進学・就労等についての相談を受け付けます。

巡回相談

専門職員が学校へ出向き、支援を必要とする子どもの様子を見たり、担任や保護者と面談を行ったりして、支援の方法、配慮することから、過ごしやすい環境などについて助言します。

研修会・各種検討会・外部連携

特別支援委員会や特別支援連携協議会、就学支援委員会、研修会を開催し、外部機関と連携しながら学校や子どもを支援し、富士市の特別支援教育の体制づくりを図ります。

〈連携している外部機関の例〉 発達専門医、大学、富士特別支援学校、こども療育センター、こども家庭課、こども未来課、障害福祉課、健康対策課、相談支援事業所、保育園・幼稚園・高等学校等

富士市教育委員会学校教育課 特別支援教育センター
お問い合わせ先 0545-55-0565

認め合い、助け合って、
一人一人が楽しい学校生活を送るために

—発達障害のある子どもの理解と支援—



この資料は、すべての保護者の皆様に、特別支援教育への理解を深めていただき、学校と家庭が連携して、子どもの成長を温かく見守ることを願い作成しました。

一生懸命やっても、苦手なことはあるものです

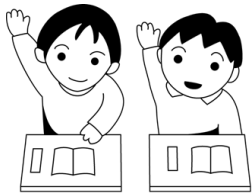


友達とうまく関われなかったり、指示されたことがよく分からなかったりする子どもがいます。

「授業に集中できず、すぐに席を立ってしまう」「集団行動が苦手」「場にふさわしくないことを口にしてしまう」などの問題を抱えている子どもには、発達障害が疑われる場合もあります。

このような子どもは、得意なことがあるのに、ちょっとしたことがすごく苦手、ということがあり、誤解されてしまうことが多いです。

一人一人に応じた適切な支援があれば、友だちと楽しい学校生活を送ることができます。



☆具体的な言葉で簡潔に説明しましょう。

「それ、片付けて。」では、何をどうしたらよいのかわかりません。「脱いだ服はかごに入れてね。」と言います。

☆物の置き場所を、決めましょう。

色別のケースなどを利用すると、しまう場所が分かりやすく、整理や片付けがしやすいです。

☆気が散りにくい工夫をしましょう。

家具やいすの向きを変えるだけでも、余計な刺激が入りにくくなります。

環境を整え、子どもにとって分かりやすい教え方をしましょう

☆言葉だけでなく、絵や写真、カードなどを使って説明しましょう。

目で見て理解することが得意な子どももいます。

☆スケジュール表を作って、予定を知らせましょう。

予定が分かると、見通しが持てるので、行動の切り替えがしやすくなります。

☆正しい方法やルールを教えましょう。

「○○してはいけない。」ではなく「△△しなさい。」という表現で教えます。

周りのおとなは、応援団です

☆ほめて、自信をもたせましょう。

「～しちゃだめ!」「まだできないの!」と言っていませんか?

「～しているね。」「～してくれてありがとう」

達成できそうな役割を与えて、できたら感謝を伝え、認めてあげましょう。

☆子どもの気持ちに寄り添いましょう。

「どうしてそんなことしたの!」「早くしなさい。」と言っていますか?

「うまくできず残念なんだよね。」「いやだったんだよね。」

迷惑をかけない行動であれば、ある程度寛容にして、注意することを絞りましょう。

☆子どもの可能性を信じましょう。

「育てにくい。」とか「困った子だ。」と思っていないか?

「このやり方だとうまくいくね。」「次もいっしょにやってみよう。」

子どもが自分で決められるように助け、納得して取り組めるようにしましょう。

一人で悩まずに、まずは学校に相談を



家庭

保護者は子どもの最大の理解者です。学校と協力して支援をしましょう。

相↓談

支↑援

小学校・中学校

子どもの発達について不安を感じたり困ったりしたことがあったときは、担任の先生などを通して学校に相談しましょう。

相↓談

支↑援

富士市教育委員会(特別支援教育センター)

- ・小中学校への巡回相談を実施して、校内での支援内容や支援方法について指導・助言しています。
- ・保護者の相談を受け付けています。
- ・必要に応じて、関係機関と連携し、幅広い支援体制を作ります。

子どもはだれでも、「もっとできるようになりたい。」「自分を認めてもらいたい。」と願っています。子どものそんな願いに寄り添って、一人一人の子どもに合った配慮や支援を学校、家庭、社会全体で協力して行っていきましょう。